

# 宮城の漁業を支える人々



特定非営利活動法人 石巻漁業実習協議会 島村 千景  
株式会社 宝進丸所属 第二十三宝進丸 カシワン

# 石巻市における外国人漁業実習について

- H 2年:外国人研修制度(団体監理型)開始 ⇒海上という特殊性から漁業は除外
- H 4年:漁業分野の外国人研修制度が開始 ⇒パイロットケース:監理団体は自治体に限定
- H19年:漁業者からの要望により、石巻市が監理団体として受入開始
  - ⇒ 石巻市と西ジャワ州が「協定書」・「覚書」を締結
  - ⇒ 石巻市が「石巻漁業研修生受入協議会」(石巻漁業実習協議会の前身組織)を設立
- H22年:入管法改正:監理団体が市から漁業協同組合に移行 ⇒「市の関わり」を条件に  
西ジャワ州が継続を決定
- H23年:東日本大震災発生 インドネシア政府により被災地の在留者は全員帰国の措置
  - ⇒ 実習生1名が希望により石巻に残留・実習継続 /石巻漁業研修生受入協議会・休止
- H24年:受入再開にあたり、NPO法人石巻漁業実習協議会を設立
- H25年:西ジャワ州と石巻漁業実習協議会との間で「覚書」を締結
- H26年:西ジャワ州と石巻市との間で「友好交流及び漁業協力に関する覚書」を締結

自治体間で開始された事業のため現地の講習費用・仲介料等 外国人の費用負担なし

# NPO法人石巻漁業実習協議会について

## ■設立目的

外国人技能実習制度で漁業の技術等を習得しようとする外国人に対して、入出国における支援及び滞在期間中における生活の支援に関する事業を行い、母国の経済発展を担う人材の育成に資するとともに、日本の沿岸漁業の活性化に寄与する

## ■活動内容

- ・特定技能支援機関（特定技能の申請・受入）
- ・就労に係る支援（出入国時の送迎・業務上の問題解決）
- ・生活に係る支援（悩み相談・諸問題の解決、手続代行）
- ・福利厚生（レクリエーションの開催等）
- ・スキル向上（漁業試験講習・日本語講習・水泳教室）
- ・受入船主サポート（書類作成・外国人との関係構築）
- ・インドネシア 西ジャワ州と日本の関係機関の窓口
- ・現地家族との連絡/現地家庭訪問



# 西ジャワ州と石巻漁業実習協議会との「覚書」

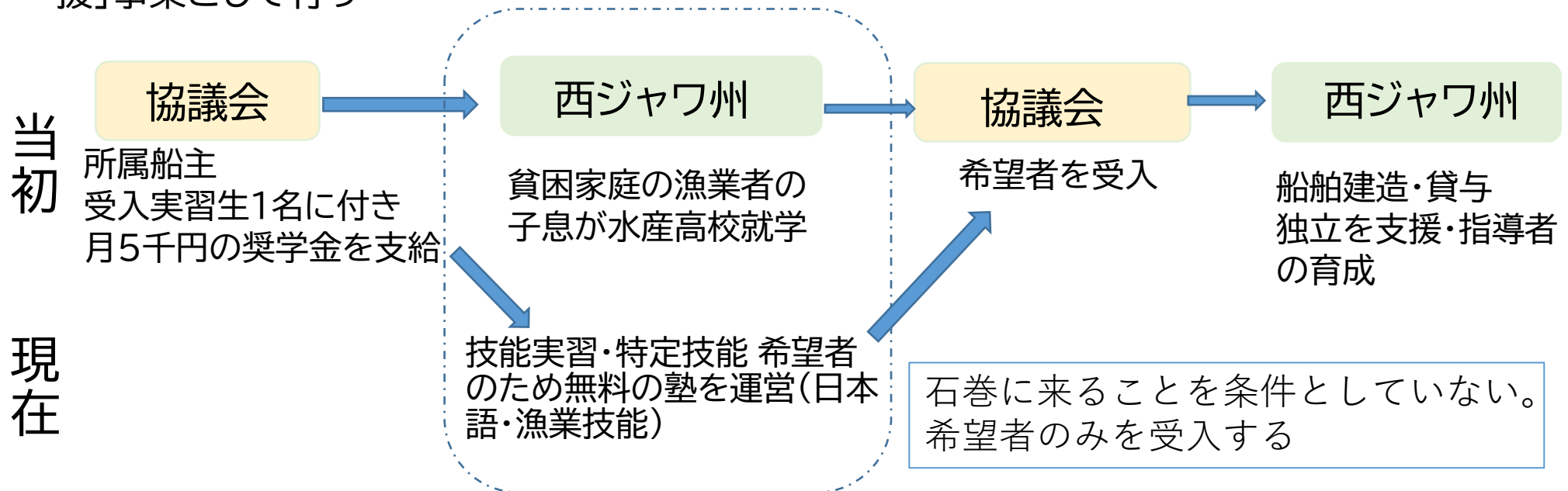
外国人技能実習制度：国際貢献(技術移転)が目的 ⇒ 現実には雇用対策の傾向が強い  
国内外からの批判も多い



制度の主旨を実現することも大切 ⇒ 実習生と受入船 双方の winwinを目指して

## 実習生・特定技能の将来につながる一貫した支援

■実習生の受け入れを単なる「出稼ぎ」、「就労者確保」ではなく、「実習前から実習終了後の支援」事業として行う





# 第1期 奨学生 石巻市訪問の様子

平成30年4月27日



# 実習生・特定技能外国人の受入状況

事業開始(石巻市が監理団体の時期を含む)から、延べ500名近くを受入

令和6年1月現在

在留資格	監理団体等	受入船主	外国人在籍数
技能実習生	渡波漁船漁業協同組合	12船主	20人
特定技能	石巻漁業実習協議会	23船主	105人
	計	35船主	125人

当協議会が  
サポート

外国人の配属地域 石巻市・女川町・気仙沼市

※現在は市内の漁業協同組合の所属会社に限定  
受入漁業種の部会により新規の受入希望船の入会を審議

特定技能については、全国的に他の就労場所への移籍が多くなりつつあるが、当協議会では、一度、移籍した者が戻ってくるケースも多い

# 外国人受入による漁業者の変化

受入当初      労働力の確保      ⇒      安い労働力  
                 制度の理解      ⇒      自己判断  
                 日本人と同じであることを要求  
                 コミュニケーションは最低限

数々の問題を協力して解決 / 現地家庭訪問

現      在      労働力の確保      ⇒      なくてはならない戦力  
                 制度の理解      ⇒      相互に注意・話し合い  
                 外国人の文化・習慣を理解(共生する意識)  
                 活発なコミュニケーション

## 今後の漁業のあり方について所感

■ 日本は人口減少による人手不足 ⇒ 他業種よりも漁業は深刻化の可能性が高い

外国人材の活用が必要 ⇒ 外国人労働者の生きがい・幸せ(互いにwinwinに)

■ 日本周辺の海域では、漁獲量の減少・魚種の変化  
⇒ 持続可能な漁業を目指す (外国人も含めた資源管理・環境保全の意識の醸成)

# 自己紹介

氏 名 カシワン

生年月日 1990.11.26 (34歳)

出 身 インドネシア 西ジャワ州インドラマユ

国立第2インドラマユ水産高校卒業

家族構成

両親・兄弟5人 長男

2015年10月結婚





# 石巻で漁師になる

- ☆ 高校では漁業の実習を経験済  
卒業後は、漁師になることを決めていた。
- ☆ 学校の先生から石巻の漁業を紹介され  
家族のために日本で働くことを決意。

2009年 5月 研修生として入国（18歳）

2011年 3月 東日本大震災

2012年10月 期間満了で帰国

2018年 7月 実習生3号として入国

2020年 2月 期間満了で帰国

2012年10月 帰国

2022年 6月 特定技能1号として入国  
現在に至る

一番上の妹は15才・一番下の弟が1才

インドネシア大使館が被災地の在留者を  
帰国させるため、バスで迎えに来る。

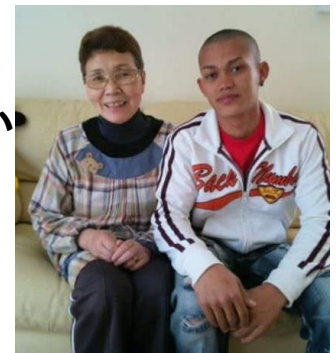
荷物をまとめてバスに乗車

- ・せっかく日本に来たのに、頑張りたい
- ・日本人が大変な時に帰国したくない

パパさんと一緒に頑張る。

日本に残ることを決意  
1人だけバスを降りた  
不安もあるけど考えない  
頑張るだけ

夜は船に泊まり、昼は  
家の片付け



# 仕事内容(1日のスケジュール)

## ○トロール（底曳網漁業）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
						休漁期					

○休日 土曜日・市場休日の前日

## ○操業の日のスケジュール

午前 2 : 10 起床

3 : 00 出港

網の投入（2～3時間 網を曳く）

→ 網の引揚げ・魚の選別

午後 6 : 00 帰港

水揚作業

午後 7 : 00 帰宅

炊事、食事、洗濯、シャワー

母国の家族とオンライン電話

午後11 : 00 就寝



# 休日の過ごし方

日本語の勉強  
目標はN3合格！



サッカー  
各国との交流試合も



モスクでのお祈り



時間があれば  
皆で談笑会



妻との日本旅行



- 後輩の悩み相談
- 後輩の送迎

2022年運転免許を取得  
船主さんから車を貸与

世話をされる立場から  
世話をする立場に

## 石巻で働く理由

○石巻は第2のふるさと 給料だけではない 今の船は家族と同じ

## 仕事のやりがい・大変なこと

○海が好き/心が落ち着く/船の仕事は全て好き

○大変なことは、船の設備トラブル。新しい後輩の指導

## 今後の目標

○インドネシアで、自分の船を持ちたい(日本の漁船と同じもの)。

○自分で漁業をやりたい

## インドネシアの家族の想い

○妻は、インドネシアでの二人の生活を望んでいる。でも、お金も稼いでほしい

## 自分の想い

○インドネシアでの生活もしたい。日本で仕事したい。二つの想いがある。